



連載 資産運用「茶飲み話」(10)

岡本 和久

投資は「生き方」を教えてくれる

普通、投資とは、以下のようなプロセスで可能となります。

1. いま、すぐには必要としないおカネがあるが、それを将来のために増やしたい
2. そのおカネをいまず必要とする人に用立ててあげる
3. その人はそのおカネを良い社会を創るために活用する
4. その会社は世の中から感謝され、その会社に利益が集まる
5. そして、感謝のしるしとしておカネを用立ててくれた人にリターンを支払う

いまずぐに必要としないおカネをそのまま引出しに入れておけば何の価値も生み出しません。しかし、それを世の中に流通させ、そのおカネが世のため、人のために活用されることで付加価値が生まれ、その付加価値の一部が自分のところに戻ってくる。それによって自分の資産が増えていきます。結局、おカネを使ってしまいたい誘惑に負けず、それを世の中に流通させることでリターンが生まれるのです。言い換えれば、投資とは、「将来の大きな喜びのためにいま、我慢をする」ということです。

この場合、投資のリターンが金銭である必要はありません。人生の目的は「お金持ち」になることではなく、「しあわせ持ち」になることです。所詮、おカネもしあわせ感に変換されて初めて価値が生まれるのです。それであれば、投資のリターンはおカネを通過しないで、直接、しあわせをもたらすものであってもいいのです。

ですから、投資のキーワードは「時間」と「しあわせ」です。時間というのは人生そのものです。我々すべての人が、この世に生れて与えられるのが人生という時間です。そして、その人生でみんな、しあわせを求めて生きていきます。ですから、「投資」について深く、突き詰めて考えていけば、自然に「人生をいかにしあわせに生きるか」という問題に到達するのです。

おカネは人々とのご縁を気づかせてくれます。これは意識の空間的な広がりをもたらします。そし



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

て、投資は「生き方」という時間的な意識の広がりをもたらします。ですから、おカネと投資について考えることは、我々の「意識の時空」を広げてくれることにつながります。そして、それによって我々は良い人生がおくれるのではないかと思います。

チョコレートからおカネを考える

たった一枚の板チョコ、ひとつ 100 円ぐらいです。チョコレートの原料はカカオです。アフリカや南米の熱いところでとれます。高さ 7~10 メートルぐらいの木の枝に直接、実がなり、その実のなかにカカオ豆が入っています。それをとって生計をたてている人もいます。乾燥した豆を日本の商社などが買付け、日本に運んできます。その船を運航する人、燃料を作る人、船を造る人、みんな、それで生活をしています。そして、日本に届いたカカオ豆はチョコレートの工場に運ばれます。その運搬作業をする人もいます。豆は工場で選別され、粉碎され、砂糖やココナツ・ミルクと一緒に練られ、ドロドロになります。それが成形され、冷やされ、包装され、箱詰めされ、倉庫で出荷を待ちます。そしてお菓子屋、コンビニ、スーパー、キオスクなどに配達されます。工場で働く人、その会社の管理部門で働く人、配送する人、お店で売る人、すべての人がそれで収入を得て、毎日の糧を稼いでいます。

たった一枚のチョコレートが私たちの元に届くまでに一体、何人の人がかかわっているのでしょうか。そのすべての人が、それを仕事として生活をしている。それが、一枚、100 円です。これって、すごいことだと思いませんか？このようなグローバルな作業がスムーズにできるのは、みんなが「おいしいチョコレートを作って喜んでもらいたい」という気持ちがあり、おカネを媒体としてその思いが物質化してチョコレートになっているのです。

少しでも世の中の多くの人に喜んでもらおうと、私たちが額に汗して働いた大切なおカネを、おいしいチョコレートを作ってくれてありがとうという感謝の気持ちを込めて支払う。そのおカネの一部は、ほんの少しでも、間違いなく、ガーナでカカオの実を摘んでいる人の生活の支えになっているのです。おカネのことを深く考えていると、我々はみんな、世界中の人たちと結びついた網の目のひとつずつであることを気づきます。そして、そのネットワークをおカネは、みんなに喜んでもらいたいという「善意」と、良いものを作ってくれてありがたいという「感謝」を乗せて循環しているのです。

なぜ瞑想が投資に役立つか

私は瞑想を始めて今年で 20 年になります。その間、外資系資産運用会社を立ち上げ、育て、2005 年からは現在の会社を起業しました。もちろん、その間に色々なことがありましたが、とにかく何とかやっていくことができたのは、朝夕の瞑想をしてきたことが大きな理由だと思っています。



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

我々の周りは色々な刺激で一杯です。そして、その刺激を受けて、さまざまな感情が湧き上がります。まるで、我々の心は暴風雨で荒波が立っている海のようなのです。でも、静かな場所で、目を閉じ、静かに呼吸をしていると段々心が落ち着いてきます。我々の日常の心も、暴風雨の海と同じで表面の波は荒いのですが、表面から深く潜るほどにその波は落ち着いた力強い波になって行きます。そして、瞑想からでてくると、いままで「大変だ、どうしよう」と思っていたことが、「ま、いいや。できることをしっかり続けよう」という気持ちになっているのです。体も疲れると同じぐらい心も疲れます。だから、心が休める時間を持つことがとても大切なのです。

株式市場も毎日、色々な材料、情報に満ち溢れています。そして、それらに一喜一憂し、荒波のように揺れ動いています。しかし、海の表面の荒波の下、深く潜るほど落ち着いた、力強い波になるように、投資も、より幅広く分散し、そして視点を長期にするほど、株価の動きは落ち着いたものになります。

海のずっと底の方には力強い潮流が流れています。マーケットでもどんどん分散を進め、保有期間を長期化するほど世界経済の大きな潮流に乗っていくことができるのです。我々の生活にとって瞑想は非常に有益です。投資にとって、瞑想に相当するのは分散投資と長期投資です。瞑想は我々の意識の時間と空間を広げてくれます。長期投資は時間の広がり、分散投資は空間の広がりです。瞑想と投資、あまり関係ないように見える両者も、実はとても似た面があるのです。（詳細は拙著、「瞑想でつかむ投資の成功法」をご覧ください。オーディオブックもあります）

トレンドに乗り、サイクルを受け入れる

株式市場には長期的な方向性を示すトレンドと、中期・短期的な変動のサイクルがあります。一般にトレンドはファンダメンタルな要因に大きな影響を受けやすく、サイクルは市場心理や需給関係を反映します。短期投資家はサイクルで勝負します。しかし、これはなかなか難しい。まあ、7勝8敗か、8勝7敗ぐらいが良いところでしょう。

長期的な方向性を示すトレンドは、大きな潮流ですからそんなに簡単に変化しません。ですから、トレンドに賭ける方が勝率は高いのです。トレンドに賭ける場合、大切なのは、ファンダメンタル面で投資対象が価値を増やしているかどうかということです。つまり、投資する株式の価値が長期的に右肩上がりであることが必要なのです。

それは、これから数十年にわたって続く世界経済の拡大だろうと思っています。地球全体で見れば人口は増えていきますし、これまで発展途上と言われていた国々の生活水準も向上しつつあります。グローバル化が進み、地球規模でのインフラ整備が各地で起こっていますし、また、代替エ



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

エネルギーなどの新技術開発もこれからどんどん進むでしょう。これらをすべてひっくるめて世界全体の株式インデックス投信を保有していればいいのです。

大きなトレンドに乗って、あとはサイクルを受け入れていけばよい。ちいさなギザギザで売買を繰り返し儲けようというような小賢しい考えは捨てて、長期のトレンドで時間をかけて大きく儲けることを目指すべきです。その意味ではサイクルの循環を通じて買い続ける積立投資は有効な方法でしょう。また、退職金を投資するような場合でも、相場の1サイクルを想定してその期間で資金を分割して投資をしていくのも良いのではないかと思います。どちらにしても、相場の天井と底を当てようという努力はあまり有益ではないと知るべきです。

心を込める、投資にも寄付にも

「物心一如」というすばらしい言葉があります。モノと心は異なるものではない、モノと心は一体であるという意味です。お百姓さんがお米をつくる時、「おいしいお米を食べてもらい、みんなに喜んでほしい」という心が込められているのです。ファースト・フードなどでマニュアル通りポンとコーヒーを出されるのにはあまり「心」を感じません。でも、こだわりの喫茶店で店主が入れたコーヒーには、「私のコーヒーを味わってください」という心が感じられます。世の中が便利になるにつれてモノと心が分離してきているように思います。

おカネを銀行に預ける。あとは銀行がどこに融資するか決めてくれる。自分は金利さえもらえればよい。これが間接金融です。銀行に預けたおカネがどう使われるか、我々には発言権はありません。あとは、「銀行さん、よろしくね」というわけです。でも、自分で株式や債券を買うときは、どの企業に自分のおカネを使ってもらいたいかという選択肢が投資家にあります。そこに思いを込めることができます。これが直接投資です。直接投資では自分の心を投資先企業に届けることができます。その代わり、パフォーマンスがどうなるかは自己責任です。

さて、2010 年末のタイガーマスク現象や、東日本大震災、広島土砂災害などが起こるとたくさんの寄付が寄せられます。これはとても良いことです。でも、募金箱にチャリンとおカネを入れて、あとは「赤十字さん、よろしくね」というのはちょっとさみしい気がします。そのおカネがどこに、どう使われるかわからないからです。つまり、「間接寄付」なんですね。

赤十字などの団体に寄付をするのが悪いわけではありません。でも、寄付したおカネがどこに、どう使われるかを明確にしている団体に寄付をすることがもっとあっても良いのではないかと思います。直接投資では自分の思いを届けるために銘柄を選択する作業が必要となります。同じように、寄付で自分の思いを直接届けようというのであれば、そのような団体を探す作業が必要です。そして、その作業をした分だけ、自分のおカネがどう役立っているかを具体的にイメージしやすい。つ



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

まり、心のリターンが大きくなります。額に汗して稼いだ大切なおカネです。投資も寄付も自分の心を込めて世の中のために用立てたいものだと思います。